

新規入会者一〇名の承認と退会者の確認を行なった。ついで会誌第二一号の編集経過に関する報告があった。また第二一回総会・研究集会の内容を承認した。一九九九年度会計中間報告の審議などを行なうとともに、さらに創立二〇周年記念出版の準備状況について報告があった。

(増測 徹)

木簡学会役員(一九九九・二〇〇〇年度)

会長	佐藤 宗諄		
副会長	鎌田 元一	田辺 征夫	
委員	今泉 隆雄	岩本 正二	榊木 謙周
	栄原永遠男	佐藤 信	清水 みき
	館野 和己	寺崎 保広	東野 治之
	西山 良平	平川 南	本郷 真紹
	榊山 明	山中 敏史	和田 萃
	渡辺 晃宏		
監事	石上 英一	岩本 次郎	
幹事	岩宮 隆司	鷺森 浩幸	鈴木 景二
	鶴見 泰寿	土橋 誠	西村さとみ
	古尾谷知浩	増測 徹	山下信一郎
	山本 崇	吉川 聡	吉川 真司

編集後記

窓辺の紅葉に霜の降りる季節となり、編集作業も最後の追い込みを迎えている。お届けする二一号は、昨年に引き続き三〇〇頁をこえる大部な本となった。この分量には、奈文研で編集を担当する館野和己氏の奮闘も限界に達しようとしている。

全国各遺跡からの報告は、これまでで最多の八二件を収載することができた。飛鳥池遺跡の長文の報告をはじめ、一つ一つの遺跡名をあげることにはできないが、ご多忙の中、貴重な情報を提供いただき、ご執筆くださった調査担当者、関係各機関に心からお礼を申し上げます。

本号は他に、創立二〇周年記念事業の一つ長屋王家木簡シンポジウムの三報告と討論の記録、書評、奈文研で写真を担当される井上直夫氏の「木簡の撮影」を収載した。木簡の豊かな情報を遺し、また公開するために正確な撮影技術は欠くことができない。

巻頭言も、木簡データベースの公開の現状と、研究利用への提言である。情報を共有し、多量のデータを駆使した研究を支える基礎は、木簡一点一点の正確な情報化に辿り着く。古代から普く各時代の木簡を網羅しようとする本誌の編集の精度については、まだ大きな工夫が必要と思われる。

(清水みき)